

兵庫の林業

2018. 10 No. 286



「兵庫県立森林大学校 開校記念式典」

もくじ

「ひょうごの木」利用拡大協議会の設立・1
「ひょうごの木」利用拡大シンポジウム・2
「ひょうご森のまつり2018」福崎町
エルデホール周辺で開催・・・3、4
△普及だより▽

緑の少年団の交流会・・・5
県立森林大学校 旧染河内小学校へ
移転、本格開校・・・6
県立森林大学校 第3期生の募集・6
県立森林大学校海外研修の報告・7、8
「六甲山の災害展」を開催しました・9
△森林ボランティア活動▽
フォレストスター松寿・・・10

10月28日は「ひょうご森の日」親子で楽し
む「森を守る」イベントを開催中・・・10
まもなく狩猟のシーズンです！・・・11
「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」&「ひょ
うごジビエの日記念イベント」の開催・12
兵庫の巨樹・巨木(2) (裏表紙)
題字・・・ 兵庫県知事 井戸敏三氏

表紙の写真

「県立森林大学校 本格開校」

昨年4月に宍粟市一宮市民局内を
仮校舎として開校した県立森林大学
校が、このほど旧染河内小学校跡
(同市一宮町能倉)に移転し、9月
29日に「本格開校記念式典」が行わ
れました。

写真は、井戸敏三兵庫県知事の揮
毫による表札を、関係者が除幕して
いる様子です。当日は、牧元林野庁
長官や知事のほか、林業関係者約100
名が参加し、新たな船出をお祝いし
ました。

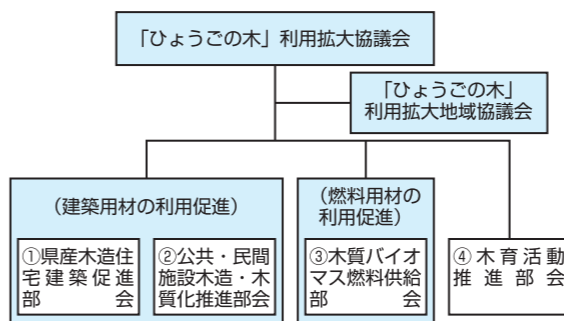
「ひょうごの木」利用拡大協議会の設立

兵庫県農政環境部農林水産局 林務課

一 協議会設立の経緯

「兵庫県産木材の利用促進に関する条例」第12条に基づき、県産木材の利用促進等に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「県産木材の利用促進等に関する基本的な指針」を30年3月19日に策定しました。この指針に基づき、県はもとより市町、林業・木材産業関係団体、建築関係団体等による主体的取組を推進するため、新たに「ひょうごの木」利用拡大協議会を設立しました。

部会員を含め71名の出席のもと「ひょうごの木」利用拡大協議会を開催しました。協議会は、川上から川下に至る県産木材に係るすべての関係者から選定し、オブザーバーに県議会、石川憲幸議員らを迎え、森林所有者や林業事業者、木材産業事業者、建築関係事業者、利用者（民間事業者、消費者団体）、行政機関（兵庫県森林管理署、兵庫県森林審議会、県関係課、市町代表）の86機関で構成しています。



「ひょうごの木」利用拡大協議会による推進体制

三 県産木造住宅建築促進部会 公共・民間施設木造木質化推進部会
部会は、住宅と公共・民間施設別に県産木材の利用拡大を図ることを目的に設立し、第1回目にあたる今回は、同日の開催で構成員



「ひょうごの木」利用拡大協議会

協議会の役員は、会長を兵庫県森林審議会の金澤洋一会長、副会長に県森林組合連合会の石堂則本代表理事会長、県木材業協同組合連合会の谷口幸三会長となりました。議事として、協議会の設立趣旨及び規約、役員の選出について協議され、全員一致で承認されました。その後、事務局からは情報提供をはじめ、協議会と部会の役割と方針、運営スケジュールについて説明しました。

四 木質バイオマス燃料供給部会

本部会は、燃料用木材の需給者間における情報共有を通じて課題を抽出し、関係者間の相互協力のもと、安定供給体制の構築と更なる利用拡大を図ることを目的に設立し、部会長は（公社）兵庫みどり公社 菅原健氏を選出しました。会議では、各関係者の燃料用木材の供給及び利用状況と、今後の見通しについて議論しました。

五 木育活動推進部会

「木育を進めることにより、森林環境への理解を深めてもらい、ひいては木材の需要喚起につながる」という考えのもと、当部会では、木材関係者、教育関係者、木育関係団体で木育の推進を図っていきます。今回の第一回部会では、（特非）ナチュラルバックヤードファクトリーの足立伸也氏を部会

長に選出し、足立氏による木育事例紹介と、木育に関する意見交換を行いました。

六 おわりに

来年度から、市町へ森林環境譲与税の交付が予定され、条件不利地の森林整備等とともに県産木材、

の利用拡大に取り組むことも可能となり、当協議会の役割も期待されているところですが、各分野で活躍中の委員が垣根を越え、忌憚のない意見交換をして、一体となり目標に向けて進んでいけるよう頑張りたいと思います。

「ひょうごの木」利用拡大シンポジウム

「ひょうごの木」利用拡大協議会

一 はじめに

県産木材利用促進条例の制定を契機に住宅への県産木材のシェア拡大や非住宅への新たな木材利用を進めるため、平成30年9月19日、兵庫県民会館において、304名の来場者のもと、シンポジウムを開催いたしました。

二 基調講演

「木材を活かした家とするには」

京都造形芸術大学特任教授

横内敏人建築設計事務所代表

横内 敏人氏

講演では、今の多くの木造住宅は、画一的で木造にも関わらず木材が見えず、降雨の多い日本の気候風土に適応した木造住宅が少なくなってきたという主旨の説明の後、



基調講演（横内敏人氏）

実際に建築された多種多様な住宅の木造・木質化の事例について、木の活かし方・魅せ方の紹介がありました。

木材は適正な森林管理を行えば枯渇しない循環資源であるほか、建設に際しその他材料に比べ少ないエネルギーしか消費しない環境にやさしい素材であることから、再評価され、利用が高まれば、森林が保全されるとともに多面的機能の高度発揮や、林業・木材産業等が活性化し地域創生に寄与するとまとめられました。

また、最後に、超高層の木造ビルの可能性を示唆されたことが、印象的でした。

三 パネルディスカッション

「県産木材の利用と地域創生」コーディネーターに神戸大学名誉教授 金澤洋一氏を迎え、パネリスト5名が、それぞれの立場から県産木材の利用拡大とするための課題と解決策について、提案されました。

東河内生産森林組合長 長野豊彦氏から、森林整備の取組により地域創生や活性化に繋がった報告がされました。

（協）兵庫木材センター代表理事 八木数也氏から、製材工場の現状・課題を踏まえ今後の方向性の提起がされました。



パネルディスカッション

ヨドプレ（株）資材部長 堀島啓嗣氏から、「但馬ティポス加工により仕口強度を高めるとともに、強度等の観点から横架材としての性能を考える必要がある。」との課題が提起されました。

ひょうご木のすまい協議会長 三渡圭介氏から、県産木造住宅の拡大を図るためには、県産木造住宅ローン以外にも建築主等へのインセンティブを与えるべきと提起されました。

兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター所長 戸田政宏氏から、外材から県産木材に利用を促すための研究課題や成果、木材利用の普及啓発への取組の重要性が提起されました。

11月4日(日)「ひょうご森のまつり2018」 福崎町エルデホール周辺で開催

兵庫県、福崎町、(公社)兵庫県緑化推進協会の共催で「ひょうご森のまつり2018」を11月4日(日)、福崎町エルデホール周辺(福崎町福田、JR福崎駅から徒歩5分)で開催します。

「ひょうご森のまつり」は、森が、生命の源泉である水を貯え、土砂災害を防ぎ、心や身体を癒すなど、県民共通の財産であることを認識し、県民参加による森づくりを一層推進し、かけがえのない森林を次世代に引き継いでいくことをめざして開催しています。

今年で62回目を迎えるこのイベントは、昭和31年に植樹など緑化の普及を目的に姫路市で開催した「兵庫県緑化大会」が始まりです。当初は林業関係者中心のイベントでしたが、その後、県内全域から多くの人々が集って森の大切さを認識する祭典となり、さらに森づくりにご尽力いただいている森林ボランティアの方々や活動報告や参加者による森づくり体験を盛り込んだ現在の「ひょうご森のまつり」になりました。

緑豊かな自然の恩恵を知り、森を守り育てる大切さを学び、県民一人一人が森について考えるきっかけとなるように、体験型プログラムも組み入れた気軽に参加できるイベントです。

本年度のテーマは「森とともに生きるひょうご、ごこくの未来」
「森を学ぼう!森を育てよう!森を伝えよう!」です。

豊かな森を知り、育て、未来の森へと繋げていくため、みんなで森の手入れをする機運を醸成することをコンセプトにしています。

【開催会場の「案内」】

今回開催地の福崎町は、西及び南は姫路市街地、北は中国山地につながり、豊かな自然環境に恵まれた町です。緑豊かな山々と清流市川が流れる中核田園都市福崎町の貴重な歴史的建造物や辻川山公園など、豊かで調和のとれた環境のもと、多くの偉人を生み、学問・芸術文化、民俗学のふるさと

福崎町は地の利を活かし活力にあふれ風格のある住みよいまちづくりを進めています。



全国的に有名な特産もちむぎ

最近では、もちむぎの産地として全国的に有名になり、また、辻川山公園の河童をはじめ町中に設置された妖怪ベンチが数々のメディアで取り上げられ、交流人口の増大が図られています。

福崎町のホームページでは特産もちむぎを使った商品や、レシピの紹介、動画共有サービス「YouTube」の福崎町公式チャンネルでは、県下八景、近畿観光100景に選ばれた七種の滝など美しい山や自然環境に囲まれた福崎町を見ることが出来ます。



妖怪ベンチ【猫また】

大人気の河童のガジロウも登場しますのでぜひご覧ください。



辻川山公園の河童

【ひょうご森のまつりの「案内」】

兵庫県警音楽隊によるプロローグ演奏でひょうご森のまつりは始まります。式典では、主催者のあいさつやご来賓の方々のご祝辞のあと、永年、森づくりに貢献された方々等の表彰式や森林ボランティア活動報告、緑の少年団の宣誓があり、式典の開催記念としてキジの放鳥と記念植樹を行います。

式典終了後、文化センターステージでは、和楽(からく)による和太鼓演奏が行われます。和太鼓演奏のあとは姫学こども園5歳児によるトランポ・ロビックスの発表です。トランポリンの上で元気に体を動かす様子をご覧ください。エルデホールの屋外ステージではイングリッシュ・フェスティバルが行われます。町内幼稚園と小中学生が練習を積み重ねた英語の歌や暗唱の発表をします。気象予報士・防災士の正木明氏による文化講演会も行われます。

その他にも、木工クラフト体験ブースやシカ肉加工品の試食・販売コーナー、森林ボランティアの指導のもと森林内で不要木の伐採・整理を体験する里山林整備体験(要予約)も行います。



イングリッシュ・フェスティバル
(2017英語劇の様子)



里山林整備体験会場
(青少年野外活動センター周辺:会場への移動はシャトルバスで)

今回の森のまつりは「第45回福崎秋まつり」と同時開催です。「新しい豊かさを築くふるさとづくりのふるさとまつり」というコンセプトのもと、産業祭のイベントとして、公民館クラブの発表会・ミニ動物園や展示即売会、食育フェアとして特産もちむぎや地元食材を使った料理や伝承料理を提供する「ひみつのごちそう村」、友好都市・岩手県遠野市特産品の展示販売などを行います。



ひみつのごちそう村



会場いっぱい福崎町の魅力がぎゅっとつまった森のまつりにぜひお越しください。

【イベント内容】

- 緑化作品コンクール作品展
- 森づくり活動団体の取組紹介
- 木工品の展示や販売
- 地域振興活動展
- 特産品PR
- 里山林整備体験
- 森の恵みのクラフト体験
- 土石流実験
- 地元名物料理
- シカ肉加工品試食・販売など

緑の少年団の交流会について

中播磨県民センター 姫路農林水産振興事務所

1 はじめに
 当事務所では、兵庫県緑の少年団連盟中播磨地区連絡協議会主催で、「中播磨地区緑の少年団交流体験学習会」を開催し、子ども達に森や木への理解を深める取組を進めています。今年度は、県連盟との共催で「緑の少年団指導者研修会」、「緑の少年団交流会」を開催しましたので、内容を紹介します。

2 「緑の少年団指導者研修会」、「緑の少年団交流会」について
 「ひょうご森のまつり」のイベントとして、8月1日に市川町のリフレッシュパーク市川において、緑の少年団約三十名と少年団指導者10名を対象に、スタッフを含め総勢約70名で開催しました。

「指導者研修会」では、日本赤十字社兵庫県支部の指導員を講師に、けがの手当など救急法についての講義を受けました。出席者からは、大変勉強になり、有意義な研修であったと好評でした。



かぶとむしど〜むでの体験

同時に開催した「少年団交流会」では、①本立てを作る木工体験、②土流実験装置の見学、③かぶと・くわがたわくわく館（昆虫標本の展示施設）の見学、④かぶとむしど〜む（ゲージ内で生きたカブトムシと触れ合える施設）



木工体験（本立て）

いしました。昼休みには、森の絵本の読み聞かせを行いました。

3 緑の少年団交流会のねらい

この交流会では、①木を切り、釘を打って、1枚の板から本立てを作る体験をすること。②治山ダムの働きを理解し、防災意識を高めること。③カブトムシとの触れ合いを契機に自然について学習すること。④森を体感し、森と植物についての理解を深め、森の働きを学習すること。を目的に実施しました。特に、「ひょうご森のインスタラクター会」の全面的な協力により、木工体験や自然観察では、班に分かれて、丁寧な指導を頂くことが出来ました。

4 少年団の反応

参加した子ども達は、慣れない



森林での自然観察

5 おわりに
 大変暑い中でしたが、無事にイベントを終了することが出来ました。自慢気に本立てを抱えて帰っていく子ども達を見送り、スタッフ一同大変安堵しました。今後この経験を生かし、中播磨地区での交流体験学習会を更に充実させようと考えています。

県立森林大学校 旧染河内小学校へ移転、本格開校

昨年4月に宍粟市一宮市民局内を仮校舎に開校した兵庫県立森林大学校が、本年8月に旧染河内小学校跡（同市一宮町能倉）に移転し、9月29日に「本格開校式典」が行われました。（表紙参照）

昨年度末に閉校した染河内小学校の校舎を内装木質化等の改修を行い、このたびの移転によって、森林林業の担い手を総合的・体系的に育成する環境が整いました。

校舎のエントランス部分には、大建工業（株）から寄贈された木質内装設備「ウッドキューブ」が設置され、地域材を活用した森林大学校にふさわしい空間として、学生や来校者に憩いの場を提供しています。

また、高性能林業機械の操作やジビエ料理を行うことが可能になるなど学習環境が充実しました。当日は、式典に先立ち、表札除幕や地元有志の太鼓演奏のほか、福島県から東日本大震災復興支援の感謝の印として贈呈いただいた桜苗木の伝達などが行われました。式典では、牧元幸司林野庁長官が「森林環境譲与税の導入と新たな森林管理システムの円滑な発進にむけて、地域にふさわしい体制

の整備が図れるよう意欲的に取り組んでいきたい。」と挨拶され、また、「現場の即戦力、リーダーとして、兵庫や日本の林業を引っ張る人材になってほしい。」と激励の言葉をいただきました。



牧元林野庁長官

また、式典後はオープンキャンパスとして校舎見学会を行うとともに、大学校生による海外研修報告やドローン実演など授業の成果が紹介されました。

今後は、担い手育成の拠点施設として、

林業関係者の皆様への期待に応えられよう適切な運営に努めますので、何卒よろしくお願います。



校舎を見学する井戸知事

県立森林大学校 第3期生の募集について

森林経営や森林林業に関わる人材を幅広く育成する専修学校兵庫県立森林大学校では、平成31年4月入学の第3期生を募集しており、入学試験を次のとおり実施します。入学者の選抜にあたっては、「一般入学試験」のほか、高等学校等からの推薦による「学校推薦入学試験」、学習活動以外の経歴や森林林業への熱い想いなどをアピールしていただく「自己推薦入学試験」、林業事業者への就業予定者を対象とする「事業体推薦入学試験」の4種類の試験を実施し、森林林業の振興に熱意を持つ、多様な学生を募集します。

試験日程、試験科目は下表のとおりです。受験資格や出願書類など詳しい内容については、県ホームページをご確認ください。

- 募集定員 20名
- 教育期間 2か年
- 試験会場 県立森林大学校
- 問合せ・願書提出先 県立森林大学校

〒671-4142
 宍粟市一宮町能倉772-1
 TEL 079-07222700

森林大学校 検索

入学試験等の募集概要

| 区分 | 募集人員 | 願書受付 | 試験日 | 合格発表 | 試験科目 |
|----------------|---------|-------------------------------|--------------|--------------|----------|
| 推薦入試 (学校推薦) | 定員の半数程度 | H30.10.9(火) ~H30.10.26(金) | H30.11. 9(金) | H30.11.16(金) | 小論文、面接 |
| 推薦入試 | 定員の半数程度 | H30.11.12(月) ~H30.11.30(金) | H30.12.14(金) | H30.12.21(金) | 小論文、面接 |
| | | | | | 国語、数学、面接 |
| 一般入試 (第1回) | | | | | |
| 推薦入試 | 若干名 | H31.2.18(月) ~H31.3.1(金) | H31. 3.15(金) | H31. 3.22(金) | 小論文、面接 |
| | | | | | 国語、数学、面接 |
| 一般入試 (第2回) | | | | | |

★募集要項等の詳細は、県ホームページからダウンロードできます。(https://web.pref.hyogo.lg.jp/cs01/gakuseiboshu_2019.html)

兵庫県立森林大学校海外研修の報告

兵庫県立森林大学校教務課

兵庫県立森林大学校の2年生14名が、6月14日(木)から25日(月)までの12日間の行程で、海外研修として欧州オーストリアの森林、林業、木材産業を視察しました。海外研修は2年生の必修科目です。海外研修の目的は「持続可能な森林管理と効率的な木材生産の両立により、世界の林業をリードする欧州の視察を通じて、幅広い視野を持って将来を見通す力を養うとともに、地域林業の発展に貢献するための見識を深める」ことであり、欧州の中でもわが国と地形が似ており、機械化やIoTをはじめとしたスマート林業の先進地であるオーストリアを研修先として選定しました。

本稿では、研修の行程のうち、オーストリア連邦森林・自然災害景観研究研修センター(BFW)、国立のオシアツハ森林研修所において、本校学生向けに特別編集された5日間の研修プログラムについてご紹介します。

6月18日
研修初日。朝8時から夕方5時



まで、みっちり研修を受講しました。午前中は室内でオーストリアの林業についての講義や安全衛生、獣害対策の講習を受講。午後からは近くの演習林に移動し、タブレット端末による森林クラウド(GIS)を利用したスマート林業のデモ、大径木の伐倒とトラクタ集材の実演などを視察しました。日本と同じところもあれば、異なることもあり、たいへん勉強になりました。夕食後はプライベートビーチで湖水浴を楽しみ、充実した研修初日となりました。



(上から順に、研修室、風倒木伐倒練習装置、タブレット端末による森林GISの利用、研修所プライベートビーチ)

6月19日

研修2日目。午前中は民間会社の社有林900haを管理するフォレストから森林管理について説明を受けました。長期的な利益の確保を目的とし、天然更新によるコスト削減や、相場が高いときに集中して材を搬出して利益を確保するなど、フォレスト業務の一端を学ぶことができました。

午後からはストラエンソ社の製材工場及びCLT工場を視察しました。同社はオーストリアに複数の工場を持ち、この工場では年間60万m³を製材しているそうです。



工場の大きさに驚くとともに、CLTの製品は出荷前に曲げ試験、燃えしろ試験などを行うなど、品質管理にも驚きました。

(右から、民有林フォレスト、森林内に設置されたシカ待ち伏せ猟のための見張り小屋、鹿をおびき寄せる岩塩、ストラエンソ社工場)

6月20日

研修3日目は国境を越え、スロベニアの林業を視察しました。スロベニアは旧ユーゴスラビアの構成国の一つで、オーストリアから見るとアルプス山脈を挟んで南側の隣国になります。高速道路で簡単に行き来ができ、最近政府が林業を振興しており、スロベニアで伐採された木材の多くはオーストリアの製材工場に出荷されているそうです。スロベニアの地質は石灰岩で土壌が薄く、国土保全のため立木の伐採には国の許可が必要です。過去には酪農の影響により森林が消失し、地中海に近い国の南西部では砂漠のような景観が広がっていたそうですが、150年前にウィーンからクロマツを移植するなど緑化が推進され、今では森林率が50%を超えるまでに回復したそうです。どこか六甲山の緑化の歴史と通じるものを感じました。



(上から、森林公園視察の様子、現地技官による緑化の歴史の説明)

6月21日

研修4日目。ノッケンベルグ(ドイツ語で丸い山)にハイキングに出かけました。ここはユネスコエコパーク(オーストリアではバイオスフィアパークと言うそうです)に指定され、環境保護と人間の生産活動の両立が図られています。標高2,000mの山頂まで牛を放牧することで、放牧地の天然更新による森林化を防止し、牧歌的なオーストリアの伝統的な景観を維持しているとのこと。放牧を奨励するため補助金が交付されているそうです。一方、土壌流出を防ぐ場所は森林として保全するため、牛の侵入を防ぐための柵が設置されていました。森林の多くは保全林ですが、健全性の維持のために伐採されたゴヨウマツなどは木材として搬出され、林業活動もされています。また、ハイキン

グコースの途中には木材利用を普及するための展示施設が設置され、多くのハイカーが訪れていました。



(右から、牛の放牧、牛侵入防止柵、木材展示施設)

6月22日

研修最終日はタワーヤードの現場を視察しました。昼食にはジビエ料理(鹿肉)をいただき、夕食はBBQでの打ち上げパーティーを開いていただきました。



(タワーヤードを前に全員で記念撮影)

なお、本稿は森林大学校Facebookページ(URLは<http://www.facebook.com/hyogoshinridai>)から一部を抜粋して編集したものです。Facebookページには本稿で紹介しきれなかった写真なども多数紹介していますので、合わせてぜひご覧ください。



阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターにて
「六甲山の災害展」を開催しました
 兵庫県神戸県民センター六甲治山事務所

一 はじめに
 150万人を抱える阪神地域に豊かな緑と潤いを与えている六甲山ですが、過去には豪雨等により土砂災害による被害が度々発生し、復旧を繰り返してきた歴史があります。

この歴史を忘れることなく、今後の防災・減災活動に活かしていく取り組みとして、今年も8月14日から26日までの間「六甲山の災害展」を開催しました。

二 六甲山の災害や歴史の展示
 裸地化していた六甲山に緑化を進め、豊かな緑を取り戻すことができた歴史の紹介や、過去において特に大規模な被害が発生した「昭和13年阪神大水害」や「昭和42年豪雨災害」発



六甲山の歴史を学ぶ

生時の貴重な記録による災害からの復興のパネル展示をしました。来場者の中には、昭和13年の水害を「子供の頃に経験した」という方もおられ、貴重な体験をお聞きする機会をいただきました。

三 実験装置で体験

災害展の中でも特に人気のある体験コーナーです。

(1) 保水力実験



保水力の違いに関心

岩塊や土壌を入れた3種類の容器を用意し、上から同時に水を注ぎ入れ、流れ出てくる水量で、浸透するスピードを見比べてもらいます。同時に注ぎ入れると、あまりの違いに驚きの声がありました。

(2) 土石流模型実験装置

六甲山の渓流を模した模型の上部から土石流（石や砂、水）を流

し、下流の街への被害の拡がり方や挙動を見てもらいます。また同じ構造の模型に治山ダムを設置することで、施設の効果や違いを体験してもらいます。体験した方からは「六甲山で多く見かける施設



土石流模型実験を体験

の役割がわかった」

「土石流の恐ろしさがあったため、避難の重要性を感じた」等、好評をいただきました。

このほかにも、様々な強さの降雨を体験できる降雨体験装置「カッパくん」や、六甲山の基岩である花崗岩を実際に手で触ってもらうコーナー、また、災害発生時の組みを知られる地すべりやがけ崩れの模型実験装置等を展示しており、体験された方々は興味深く見学されていました。

四 危険箇所等の情報を確認

パソコンを使って「CGハザードマップ」を実際に来場者の方に操作してもらい、自宅周辺の危険

箇所や避難場所を調べ、今後の避難判断に役立つ情報を閲覧操作してもらいました。

五 まとめ

今年の来場者は昨年を大幅に上回り4,000人を越える結果となりました。また、アンケート結果では、来場した約63%の方から「防災意識が向上した」と回答があり、「避難場所や危険な箇所、防災グッズの確認をする」等の感想が寄せられました。

来場者の方からは、今年の7月に各地で甚大な被害が発生した西日本豪雨を受けて防災意識の向上や取り組みの大切さを再認識し来場したという声を多くいただきました。

7月の豪雨では六甲山（芦屋市奥池）でも連続雨量714ミリを記録する等、例を見ない降雨があり、多くの被害が発生したことは記憶にあたらしいところです。

昔から「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。県民の皆さまが常日頃から防災意識を高く持ち続け、いざというときの適切な行動に役立てられるように、今後も防災・減災の普及啓発に取り組んでいきます。

森林ボランティア活動
フォレストスター松寿

代表世話役 蓮井 滋

09年に松寿の森づくり活動を開始した「フォレストスター松寿」は、今年で10年目を迎えます。12月には活動100回目、参加者は延べ約2,150名、延べ1,000本近くの苗木を植樹することになります。

「森の世話人」として参加している「六甲山系グリーンベルト整備事業」は、23年前の阪神・淡路大震災を契機として始まり、神戸市東灘区森北町北部の約15haの山林が我々の活動地です。

日頃の整備活動以外に、「植樹会」「岡本校回廊を巡るお花見会」等のオープンイベント時には、自然観察会等の環境学習も実施しています。参加者も会員だけでなく地元

の高校、大学、地元住民にも広がり、バラエティに富んだ皆様に参加頂くようになり、活動はまだ



まだ知られていないのが現実です。森づくりが地域の防災に貢献していることを再認識し、次世代に引き継ぐ必要性を痛感しています。そのためにも、継続した地道な活動と、次世代に向けての情報発信を積極的に行って参ります。学校訪問等の啓蒙活動や、活動を紹介したチラシやパンフレット、告知ポスター等の活用、ホームページやブログの充実を継続して参ります。



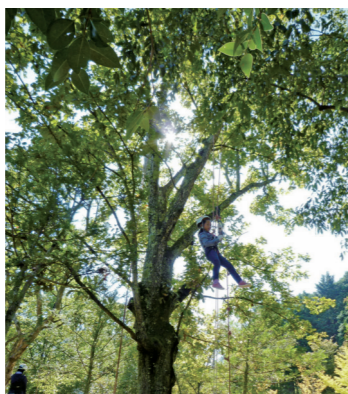
昨年6月には第28回全国「みどりの愛護」功労者として国土交通大臣表彰を受賞し、今年4月には第53回「さくら功労者」として感謝状を受けました。

これを励みとしまして、緑豊かな森づくりを進め、地域の防災に貢献して参ります。

10月28日(日)は「ひょうご森の日」
「親子で楽しむ」「森を守る」イベントを開催中

兵庫県豊かな森づくり課森づくり普及班

兵庫県では、平成17年10月に県立有馬富士公園で第29回全国育樹祭が開催されたことを契機に、毎年10月の最終日曜日を「ひょうご森の日」としました。



ツリーイング

今年の「ひょうご森の日」は10月28日(日)にあたり、10月から11月にかけて、「親子で楽しむ」イベント(ハイキング、ツリーイング、炭窯ピザ、植樹など)、「森を守る」イベント(除間伐や竹林整備、炭焼きなど)を、県内各地の森林ボランティア団体等が開催します。

今年度は全106件のイベントが開催されますので、是非この機会に、ご家族で自然豊かな里山へ



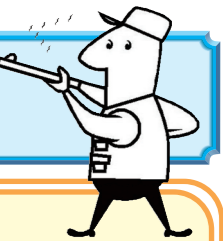
竹林整備



シカの焼肉

※詳しい情報は、「ひょうご森の日」で検索。
 ※イベントの内容は、天候や準備の都合で変更・中止となる場合があります。

まもなく狩猟のシーズンです！



- 11月15日から翌年2月15日までの間は、狩猟が解禁となります。ただし、シカとイノシシは3月15日まで。
- 入山者の皆さんは、目立つ服装や鈴やラジオなど、音の出るものを身につけましょう。
- 狩猟者の皆さんは、**ルールを遵守し、狩猟事故ゼロをめざしましょう**

◆入山者（林業従事者やハイカー）の皆さんへ

1. 山の中へ入られる際は、黄色など明るい色の目立つ服装を心がけてください。また、白色のタオルはシカの尾と間違えられやすいので、注意して下さい。
2. 土曜日・日曜日・祝日は、狩猟者が集中しますので、特に注意してください。
3. けもの道に仕掛けられたワイヤーロープの「くくりわな」は、非常に危険ですので、わな設置の看板（標識）がある場所へは近づかないでください。

◆狩猟者の皆さんへ

【重要なお知らせ！】

- ・本年度も、ツキノワグマの狩猟（銃猟）を**制限付きで実施**します。
- ①県への事前承認申請のほか、安全講習会への参加された方が対象です。（10月11日で申込は終了）
- ②ツキノワグマの狩猟期間は11月15日から12月14日の30日間です。

1. クマが生息しない淡路地域のみ、輪の直径が12cmを超えるくくりわなを使用してシカ及びイノシシを捕獲できます。
2. 猟銃の使用が禁止されている場所（鳥獣保護区、休猟区、特定猟具使用禁止区域（銃器）、公道等）では、絶対に銃猟を行わないようにしましょう。
3. 猟場が人家近くではないか、入山者の入り込みがないかなど、事前に猟場の状況を十分に確認しましょう。
4. 「わな」には決められた標識を付け（第三者にはずされない工夫を行ってください）、見回りを励行しましょう。また、設置の際は地域住民や入山者等へは充分配慮を行ってください。
5. 他人の土地や森林に立ち入って、自由に狩猟する権利が認められているわけではありませんので、土地所有者等から立ち入りを断られた場合には、狩猟を行わないようにしましょう。
6. 特に、さく等で囲まれた土地や作物のある土地に立ち入る場合は、土地所有者（占有者）の承諾を得ることが法律で定められています。
7. また、「国有林野」や「官行造林地」に立ち入る場合には、事前に「入林許可証」の交付を受けてください。
8. 平成30年1月6日から20日までの間、全国一斉に「ガン・カモ調査」が実施されますので、カモ猟の自粛をお願いします。
9. 法律や狩猟マナーを守り、無理のない、心にゆとりのある狩猟を心がけましょう。（兵庫県農政環境部環境創造局鳥獣対策課）

「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」& 「ひょうびジビエの日記念イベント」の開催

農政環境部環境創造局鳥獣対策課

「森の番人」「自然の恵みをいただく」「野生動物との知恵比べ」現場で活躍しているハンターさんの話を聞きながら、野生鳥獣の生態や農林業被害のことを一緒に考えてみませんか。ヘルシーなジビエ料理を食べ、人に健康を、農村地域を元気に！

ハンティング模擬体験や狩猟免許取得の相談コーナーもあります。ふっつての参加をお待ちしています。

1 日時 平成30年10月28日(日) 13:00～17:00

2 場所 神戸サンポートホール 2F大展示場
(神戸市中央区浜辺通り 5-1-32)

3 主催 環境省(共催:兵庫県、一般社団法人兵庫県猟友会)

4 プログラム
●ハンターによる狩猟の魅力トーク
講師:佐茂規彦(狩猟専門雑誌「けもの道」編集長)

●若手ハンター6名とのトークセッション
「私がハンターになった理由(わけ)」



平成29年度 佐賀県で開催

●食育専門員によるジビエ給食の魅力

●ブースコーナー

ハンティング模擬体験、猟具の紹介、狩猟免許取得相談コーナーなど

●ジビエ試食コーナー

もみじごはん、鹿カレーなど参加無料・事前申し込み不要

【お問い合わせ先】

鳥獣対策課
TEL 078-136213728



土・木・緑・そして人

とりもどそう 人にやさしい環境

〒671-4141 兵庫県宍粟市一宮町東河内1003
Tel 0790(72)1553 Fax 0790(72)2327
URL <http://www.greenkousan.co.jp>
E-mail: info@greenkousan.co.jp

株式会社 **グリーン興産**

みどりの集い.com あなたと共に 未来へつなぐ 森林づくり



森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理

緑と笑顔が私たちの基本です



株式会社 西村風昇園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1
TEL(0796)23-5611 FAX(0796)22-4529
URL[<http://fuukouen.com>] E-mail[seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

・姫路本店
・神戸営業所

“治山・林道測量”



株式
会社

は経験と実績のある 石原測量コンサルタント

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
Tel (0790) 63-1377
Fax (0790) 63-1398
営業所 兵庫県姫路市夢前町助野1078-3
Tel (079) 336-1418

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に

松枯防止樹幹注入剤

フレック[®] 粒剤10

マツガード[®]

発売元 正和商事株式会社

大阪市中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

ふるさとの木「兵庫県産木材」おすすめします

当連合会では、公共施設や公共土木の工事、地域型住宅グリーン化事業等で使用される兵庫県産木材の証明、兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度の申請に必要な県産木材(ひょうご県産認証木材製品)使用住宅証明書の発行を行っています。
兵庫県産木材は、当連合会に設置している県産木材供給部会の部会員が積極的に供給しております。
詳しくは、当連合会のホームページをご覧ください。

兵庫県木材業協同組合連合会

〒650-0013 神戸市中央区花隈町12番6号 第三大知ビル5階
Tel: 078-371-0607 Fax: 078-371-7662 URL: <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/>

自己流で使っていませんか?

チェーンソー・刈払機の安全講習のご案内

講習を受けて、正しい使い方を学びましょう!

チェーンソー(大径木等伐木)
作業従事者特別教育

H30.12.13~14(予定)

中はりま森林組合
会議室
(神河町寺前)

刈払機取扱作業
安全衛生教育

H30.11.16(予定)

中はりま森林組合会議室
(神河町寺前)
三木山森林公園 森の研修館
(三木市福井)

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部



守 暮 人 山
る ら の と
し
を

日本の森林とともに歩いて60年 日本きのこセンターは国産材を活用した原木きのこ栽培を応援しています
一般財団法人 日本きのこセンター 本部 鳥取市富安1丁目84番地 Tel 0857-22-6161 (代)
鳥取事務所 鳥取市古郡家211 Tel 0857-51-8132 Fax 0857-51-8133

緑を育み水をつくる水源林造成事業



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-19 東洋ビル
TEL (078) 571-0133 FAX (078) 571-0135

兵庫県水源林造林協議会
〒650-0013 神戸市中央区花隈町12-6 第三大知ビル
TEL/FAX (078) 351-3341



550XP-JP/XPG-JP

レッドトッド・デザイン賞2013
ベスト・オブ・ベスト受賞製品



AutoTune

■排気量: 50.1cm³
■出力: 2.8KW ■質量: 4.9/5.1kg(XPG)

本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上のパワーでさらなる軽量化に成功した500シリーズをぜひお試しください。

愛 林 興 業 株 式 会 社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(番代)
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

森林を守り育て、地域の安全・安心を確保する**治山事業**。
美しい森林、豊かな緑を確保する**林道事業**、**造林事業**、**松くい虫防除事業**。



一般社団法人 兵庫県治山林道協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5-5-12
兵庫県土地改良会館3階
TEL: 078-371-0210 FAX: 078-371-6632

兵庫県治山林道協会



兵庫の巨樹・巨木(27)

兵庫県のスギ母樹林を訪ねて

戦後盛んにスギ・ヒノキの造林がされたが苗木半作と言われ、その苗木の種子の採種は兵庫県指定母樹から採取されていた。今回はスギの代表的母樹を紹介する。

③1 妙見杉

【養父市八鹿町石原名草神社】

養父市と美方郡の境にある妙見山(標高1139m)の中腹に名草神社(標高800m)があり、その社殿建造物はスギ・ヒノキの巨木で取り囲まれている。そのまた周囲には広葉樹林(ミズナラ・カエデ・ミズメ・ナナカマド・トチノキ等)が存在し、但馬の雄大な森を形成している。このスギ林の中に母樹があり、多くは妙見杉の名で知られ、一般の苗木より高価



拝殿横のスギ(幹周囲695cm)



妙見杉母樹(樹高42m幹周囲469cm)

な金額で市販されていたそうである。

但馬の雪深い地、標高800mの地で暮らす妙見杉の母樹は樹高が40〜50m・幹周囲5mを超える。

名草神社は今、「平成の大修理」と称して大規模な工事中であり、平成32年度には完成予定である。スギの巨木に囲まれた新しい社殿を楽しみにお待ちいただきたい。

③2 小代杉

【美方郡香美町秋岡小代神社境内】

小代神社は標高400mにあり、その境内一帯はスギ・ケヤキ・トチノキ・ブナ等の巨木の生育する鎮守の森を形成している。なんとと言っても境内の主役はスギである。

境内裏山には、町指定の天然記念物「燈明スギ」があり、そのスギのDNAを受け次いで大きく育

ったスギ群が小代杉である。案内板には兵庫県指定の小代杉の母樹が9本あると記され、拝殿周囲にブナと一緒に育っている。

社殿と巨木のスギ(胸高周囲522cm)とブナ(胸高周囲281cm)という構図は、この小代神社でないといられない光景である。この地にこの人あり。この小代スギを守り育てた吉田二雄さんをごに記して紹介させていただく。



社殿とスギとブナ

③3 船越杉

【佐用郡佐用町船越瑠璃寺参道】

お猿の寺で知られる、瑠璃寺(標高200m)の参道に並ぶ杉並木が船越スギの母樹である。参道に並ぶスギに色あせた白線がみられるが、これが船越杉指定母樹の証である。

かつて兵庫県の依頼で近藤助先生が県下の母樹を視察された時に

同行し、勉学の機会を得た。先生は「瑠璃寺は真言宗のお寺、参道の杉並木は高野山奥の院のスギの分身であろう」とお話しされた記憶が甦る。

参道に天を衝く様に伸びたスギ、樹高が40m以上、胸高周囲が3m以上のスギが点在する参道は歩くだけで心が洗われるような気がする。



高く伸びている船越杉

今回紹介した母樹杉について、兵庫県林業試験場の前田千秋氏は「高山地帯には妙見杉・中間地帯には小代杉・低地には船越杉を植栽した」と指導し、今その適切な御指導で山々の杉は元気に育っていると云える。機会あれば母樹の巨木に出会いに行ってほしい。

樹木医 橋本光政
樹木医 宮田和男
樹木医 塩見晋一